

倫理分野

第1章. 自分らしく生きる

1. 青年期とは

【青年期の出現】

※昔は青年期はなかった。

第二次性徴 (身体に性的特徴がより強くあらわれること) を迎えるとまもなく、
通過儀礼 (イニシエーション) をへて「子供」から「大人」に仲間入りをした。
↳ ……人がある集団に加入するにあたって行われる儀式

⇓

現代…身分制度の崩壊、職業選択の自由。知識・技術のレベルも高い。
→ 一人前の大人になるための準備期間が必要。

◎ **エリクソン** (ユダヤ系ドイツ人→アメリカ、1902-94、発達心理学)

モラトリアム (義務猶予期間)

青年期は、大人としての義務を果たすことを猶予され
自立に向けた準備をする期間
→近年はこの期間が延長されてきている

【自我のめざめと第二の誕生】

“**自我**” ……「自分」を自分で意識したり、「自分」と「自分以外」を区別したり、
自分を構成する要素をひとまとめにして1個の「自分」を作り上げたり、
自分の感情・行動などをコントロールする、などという心の働き

◎ **ルソー** (フランス、1712-78)

“**第二の誕生**” ……著書『**エミール**』で青年期を表現したことば

「私達はいわば2回この世に生まれる。1回目は存在するために。

2回目は生きるために。はじめは人間に生まれ、次には男性か女性に生まれる。」

※自我のめざめ…自分を強く意識すると同時に、周囲に対する批判意識も強くなる

→ “**第二反抗期**” ……親や社会の価値観に否定的になりこれに反抗する

◎ **レヴィン** (ドイツ、1890-1947)

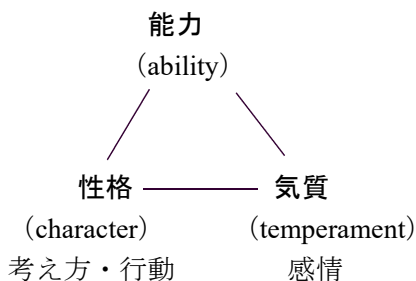
・ **マージナル・マン** (marginal man、**周辺人**、**境界人**、marginal = 周辺の)

大人の中に入っても、子供の中に入っても隅にいるしかない青年

2. 自己形成の課題(1)

【パーソナリティの形成】

※ _____ (personarity、個性) ……下の3つから構成される



※「個性」は欲求の合理的実現や劣等感克服の過程で形成されていく。

◎ ユング (スイス、1875-1961)

性格を分類…… 内向 的性格、 外向 的性格

【悩みと向き合って】

- ▶ コンプレックス……不安や恐怖など、マイナスの感情を伴う体験が、心の奥底の無意識に抑圧されて固定化されたもの
劣等感もその1つで、正しくは「劣等コンプレックス」と呼ぶ
- ▶ ヤマアラシのジレンマ
もっと親密になりたいと思いつつも、相手を傷つけることや自分が傷つくことを恐れて、なかなか適度な距離を見いだせないこと

【適応行動と防衛機制】

◎ マズロー (米、1908-70) ……欲求階層説

- ・ 欠乏欲求 ……
 - ①. 生理的欲求 (食欲、性欲、睡眠欲など)
 - ②. 安全
 - ③. 所属・愛情
 - ④. 他者からの尊敬、自尊 (セルフ・エスティーム)
- ・ 成長欲求 …… 自己実現 への欲求

<防衛機制>

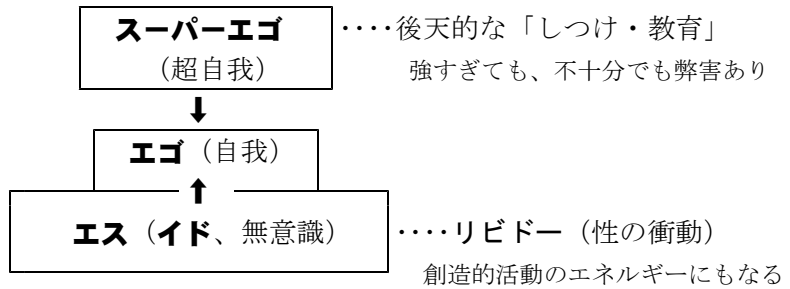
- ▶ 欲求不満 (フラストレーション)
- ▶ 葛藤 (コンフリクト) ……複数の対立する欲求のどれを満たすか決められない状態
↓
精神的不安定 → 社会的不適応 状態

↑

- ①. 合理的解決……その過程で望ましい個性が形成される
- ②. 近道反応……不適切な衝動的・短絡的行動に走る（→失敗状態）
- ③. 防衛機制……無意識のもの。根本的解決にはならないことに注意。

◎ **フロイト**（ユダヤ系オーストリア人、1856-1937）
 著書『夢の研究』『精神分析入門』

▶ 心の構造と**無意識**を研究



▶ **防衛機制** (defence mechanism)

欲求不満などによる不安・緊張から自我を守る心の**無意識のはたらき**

抑圧	不安・苦痛のもととなる欲求などを意識の外に閉め出す	
合理化	負け惜しみ・やせ我慢のような、自分の立場の正当化。 ex. イソップ童話「きつねと葡萄」	
同一視	他人の持つ能力・業績・価値を自分が持っているように思いこむ	
投影	自分の中の認めたくない（イヤな）感情・特性を、相手が持っているのだ、と思いこむ	
反動形成	実際とは逆の態度や行動を誇張する。 ex. 嫌いな相手に親切にする。臆病な人が強がる。	
逃避	自分の中に閉じこもり孤立。空想にふける。 神経症を起こして病気に逃げ込む など	
退行	子供の段階に逆戻りして、安全で負担のかからない状態になる。 ex. 弟妹が生まれて親にかまってもらえない子供が甘える、など	
置換	代償	ある欲求が満たされない時に、別のより達成しやすい欲求を満たすこと
	昇華	上記の場合で、逆に、より社会的価値が高い活動にエネルギーを転化して発散させること

3. 自己形成の課題(2)

【青年期の出現】

※ライフサイクル（人生周期）と 発達課題

各年代ごとに達成すべき課題がある。（下表はエリクソンによる）

発達段階	発達課題	失敗の状態
乳児期	基本的信頼	不信
幼児期	自律性	恥・疑惑
児童期	自主性	罪悪感
学童期	生産・勤勉性	劣等感
青年期	自我同一性 <u>identity 確立</u>	<u>identity 拡散</u>
成人期	結婚・職場等での親密さ	孤立
壮年期	若い世代を指導する世代性	停滞
老年期	人生を統合する肯定感	絶望

◎ エリクソン（ユダヤ系ドイツ人→アメリカ、1902-94）

青年期の発達課題の中心＝「アイデンティティ（自我同一性、identity）の確立」

私は他の誰とも違う独自の存在であり、過去・現在をへて将来もずっと私であり続け、
何らかの社会集団に所属し、一体感を持つと同時に、他者からもそう認められている
... という主体的な感覚のこと

※ identify（動詞）＝～を（本人・同一のものであると）確認する、～の身元を確認する

→これに失敗すると アイデンティティの拡散
アパシー（無気力、無関心、無感動の状態）に陥る

※その他の学者による青年期の発達課題

ホリングワース(1886-1939)・・・心理的離乳

ハヴィガースト(1900-91)・・・職業選択準備、経済的独立の目安をつける

【現代社会と青年】

- ・ モラトリアム人間・・・心理学者 おこのぎけいご 小此木啓吾による
厳しい社会的現実に戻込みし、自立を回避しモラトリアムに逃げ込む
- ・ ピーターパン・シンドローム・・・大人になれない、なることを拒んで現実逃避する傾向。
1983年、米の通俗の心理学本作家ダン・カイリーの著書から

4. 職業生活と社会参加

【職業の意義と職業選択】

- ・ 意義……経済的自立、自己実現
- ・ 自分に適した職業選択のためには たとえば**インターンシップ**に参加する など
⇔**フリーター、ニート** (NEET、Not in Education, Employment or Training)

【社会参加とボランティア】

- ◎ アリストテレス……人間は **社会的動物** である
(Zoon Politikon、ポリスの・政治的動物)
- ◎ サルトル……社会参加 (**アンガージュマン**、engagement、拘束) を重視
社会に拘束 (アンガジェ) されながら、その社会に働きかけ自由を拡大させていく

※ ボランティア (volunteer)

語源は will (英) の語源でもあるラテン語の「Volo = 意志・志願」
自発性、無償性……最近は、実費や一定の謝礼を受ける有償ボランティアが受容されている。

◎ **マザー・テレサ** (ユーゴスラヴィア→インド、1910～97)

1952年、「死を待つ人の家」設立。

最初、インドの人々から、そこに運び込まれるとキリスト教に改宗させられる、と誤解されていた。しかし、そこでの彼女は、まさに死ぬばかりの人の手を握りながら、「あなたの宗教で祈りなさい。私は私の言葉で祈ります。」といい、その死後はその人の宗教で葬式をあげていた。

「愛の反対は憎しみではない。無関心である。」

「この世の最大の不幸は、誰からも自分は必要とされていない、と感ずること。」

【男女共同参画社会】

- ▶ **ジェンダー** (gender) ……社会的・文化的「性差」。生物学的性 (sex) とは異なる。

◎ **ボーヴォワール** (仏、1908-86) ……作家。サルトルの共同生活者

「ひとは女に生まれるのではない。女に作られるのだ。」(著書『第二の性』)

→男性中心社会を批判、女性解放運動の思想的原点に

▶ **ポジティブ・アクション** (positive action)

日本において、**アファーマティブ・アクション** (積極的格差是正措置) のうち、特に女性に対しての措置のことを、「positive discrimination (肯定的差別)」と「affirmative action」とを組み合わせて造語した和製英語。

職場での女性雇用者割合に一定の数値を設定 (**クォータ制**) など